

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 20 号 (10 月 12 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権初戦 山商に完敗

いよいよ 10 月 8 日(土)から高校サッカー最大のイベント、高校サッカー選手権の県予選が始まりました。山東は初戦シードにつき 9 日(日)2 回戦から登場。対戦相手は、山形商業と鶴岡中央との勝者。Y1 で 2 位の好成績を収めた山商の勝ち上がりが予想されましたが、果せるかな、順当に勝ちを収めた山商が 2 回戦に上がってまいりました。山東は今期、新人チームでの対決や練習試合を含め、山商に一度も勝っていない。多くの方の予想は 2 回戦も山商の順当勝ちだったでしょうが、われわれも Y1 に在籍するチーム、座して死を待つつもりは全くない。虎視眈々と勝ちを狙っておりました。まず作戦としては、しっかり引いて自陣にて守備ブロックを形成し、攻撃力のある山商を零封し、得点できずに焦る山商からカウンターで得点し逃げきる、というもの。高校生の試合では守り切る力がないからでしょうか、ほとんど見ることのできない作戦¹。去年は、選手権準決勝で羽黒を相手に同様の戦法で戦い、大成功を収めている²。今年も二匹目の泥鰌を狙いました。

選手権の組み合わせが決まってから、この「引いて守ってカウンター作戦」は心に決めていました。組み合わせ抽選の後に、Y1 残り 2 節のところで山商戦があったのですが、そこではこの作戦は伏せ、ガンガン前からボールを奪いに行く作戦を採用。山商はベストメンバーではなかったような気がしますが、これまでで最も良い戦いをする事ができ、1 - 2 で敗れはしたものの選手権に期待を抱かせました。

Y1 最終節の山形中央戦にて今期初の「引いて守ってカウンター作戦」を採用。もちろん Y1 残留のためにこの作戦を採用したのですが、選手権にて使用する作戦の予行演習も兼ねておりました。結局、力の差のある山形中央相手に引き分けに持ち込むことができ、「公式戦でこの作戦の予行ができるとは選手権への良い準備ができた」と喜んでおりました。そして 10 月 9 日、満を持して山商戦を迎えました。

11:00、山商グラウンドにてキックオフ。すると、引いているというより押されて、山東ゴール前での攻防が始まる。すると程なくして深い位置(山東左サイド奥)で山商に FK を与えてしまう。最初のセットプレー。素晴らしい軌道で蹴られたボールは、ニアサイドのヘディングですらされて軌道が変わる。それを巧い具合に飛び込んできた 2 列目が左足アウト(恐らく)で絶妙なタッチでボールを流し、ファーサイドのサイドネットに吸い込まれる。開始 5 分と経たないうちに失点。前半の失点をゼロで折り返すプランは早くも瓦解。ただ選手には、失点しても動揺せず、「前半の 0 - 1 は御の字」と伝えピッチに

¹ ちなみに、モンテ(トップ)は常にこの作戦を採って J1 を戦っています。

² 結果は、2 対 2 からの PK 負けですので、「勝って大成功」という訳ではありませんでしたが、彼我の実力差を考えるに、大成功と呼べるでしょう。

送り込んだだけに、下を向いてばかりいられない。そういえば、この作戦が成功した昨年の羽黒戦では、試合開始早々に失点し、「何点取られんだろう」と不安になったものの、その後持ち直し、前半を「予定通り」0 - 1で折り返したことが思い出される。「そうそう、去年もそうだったんだ、今年も・・・」と淡い期待を抱くも、この試合、前半の失点の一つになるとは限らない。すると10分過ぎ、ペナルティエリア中央付近で山商エースFWに一瞬のすきを突かれる技ありシュートを決められ、早くも2失点目³。「引いて守ってカウンター作戦」崩壊。ここで重要な指示の遺漏に気付く。2失点目を喫したのなら、その後、作戦を捨て前に出るかどうかの指示。「あ～、しまったな～」などと考えていると、選手は律義。しっかり引いて守り続けている。すると、山商は2点差もついているんだからGK、DFでボールを回し、前に出てこない。2点差で負けているチームが引きっぱなしで前に出ないなんて、正直あわれな光景。ですがベンチの監督は、自分の采配の首尾一貫性が選手に疑われるのを恐れて、「やっぱり前から行け(こうなったら前から行け)」となかなか口に出せずにいる。完全な采配の失敗。そして失敗に失敗を重ねている！ そんな監督に率いられた選手はかわいそう！！ はっきり言って、他チームの試合だったら監督の采配に怒っていたでしょうね。2点差で負けているチームが前に出ないなんて、座して死を待つだけですから有り得ない。選手が監督の指示を覆して前から行ったら黙認しよう、いや、もっと正直に言えば、選手が勝手に前から行かないかな～、などと人任せに考えていました。が、ここで指示を出さなかったら絶対後悔すると考え、とうとう「前からどんどん行け」と指示を出す。すると試合は少し動きだすも、完全に余裕を得た山商イレブンに山東のプレッシャーを涼しい顔で受け流す。山商のように技術のあるチームには、技術を出させない、前からの激しいプレッシャーが必要だったんだな～、などと後悔しながら戦況を見つめる。前半0 - 2。

後半開始早々、前がかった山東はビッグチャンスを得るも、それを逃す。確かにユニフォームを引っ張られていたので、ファールでPKのように見えたが、主審はあの程度の引っ張りはプレーに影響がないとの判定⁴で流す。それを決め切れず。その後、決定的チャンスは山東についぞ現れず。山商は攻撃の選手ばかり注目を浴びますが、CDFの二人もとても良い選手であり、山東の攻撃の芽を摘みまくり。そのCDFの一人、山東を自陣の懐に引き込んでおいて、ロングキック一閃。エースFWを走らせ、決定的な3点目を演出。その後CKからヘディングシュートを決められ、結局0 - 4のワンサイドゲームで終了。山東の完敗、山東の選手権は一試合で終了。選手は彼我の力の差にショックを受けていた模様ですが、監督も自分の力の無さに肩を落としました。今年の泥鰌はすべて永田町に集結したんですかね・・・。

選手諸君、力の差はあったが、力の差を得点差に反映させないのが粘りの山東の真骨頂。今回は監督の力量不足でまったく力を出し切れずに終わったが、われわれにはまだ県新人がある！ 県新人まで下を向かず、課題の克服に努めよう。

OB会の皆さま、保護者の皆さま、応援ありがとうございました。

³ ディフェンダーを一瞬ずらし、振りのシャープな右足インフロントでボールを速く転がし右サイドネット(山東からすれば左サイドネット)にボールをねじ込む。ちょうど、ドイツW-Cup日本 - ブラジル戦で、ロナウドに決められたような素晴らしい得点でした。

⁴ このまとめは試合後に主審に確認したので、私の憶測ではありません。